

# 手稲区の概要・歴史



## 位置と広さ

Location & Size

手稲区は、市の北西部に位置し、南東は手稲山の山頂から新川にかけて西区と、西は手稲連山の尾根を境として南区・小樽市と、北東は北区・小樽市・石狩市と、北西はおたるドリームビーチのある小樽市と接しています。面積は56.77km<sup>2</sup>で東西に10.9km、南北に9.4kmの広がりをもって、札幌市の10の行政区の中では6番目の広さを有しています。

## 自然

Nature

手稲区は、市内でも極めて自然に恵まれた地域であり、南西部に位置する手稲山(標高1,023.1m)を源として市街地を流れる軽川(がるがわ)、三樽別川(さんたるべつがわ)、中の川、星置川などの河川には、魚や昆虫、水鳥が数多く生息しています。

手稲区のシンボルである手稲山は、登山やハイキングのほか冬はスキーやスノーボードなど、四季を通じて絶好のスポーツ・レクリエーションの場として市民から親しまれています。手稲山の麓にある星置の滝や乙女の滝は訪れる人に雄大で美しい姿を見せており、北尾根ルート(自然歩道)や山頂からは眼下に広がる札幌の街並みや日本海、さらには遠く増毛連山などの素晴らしい眺望を楽しむことができます。平成26年6月には、その標高にちなんで10月23日は「手稲山の日」と定められました。

## 歴史

History

手稲は、明治の初期に北海道の開拓を支える交通の要衝として開けた街です。開拓当時、主に小樽港を基点に物資の補給が行われていたため、軽川(現在の手稲本町)やサンタロペツ(現在の富丘)が、小樽港から開拓使本府の置かれた札幌への陸上輸送の中継点となりました。このように物資の集散地区となった軽川やサンタロペツには人々が集まり始め、集落が形成されるようになりました。明治の中ごろになると手稲山口に山口県から、星置には広島県からそれぞれ入植者があり、農耕地の開墾を始めました。また、不毛の地であった前田や新発寒は、酪農を主とした農場へとその姿を変えていきました。明治の終わりには、新川の川辺などで土器のかけらが発見され、昭和に入ってから完全な形の土器が見つかり、本格的な発掘調査が行われました。その結果、約4,000年前に先住民が生活していたことが分かり、この遺跡は「手稲遺跡」と名付けられました。明治の中ごろには手稲山で金鉱脈が発見され、昭和10年代には鉱山が最盛期を迎えました。当時東洋一といわれた選鉱場をもち、にぎわいを見せていた鉱山も、戦後次第に衰退し、昭和46年に閉山しました。昭和42年、手稲町は札幌市と合併。以後、新興住宅地が次々とでき、発展のスピードも急ピッチになりました。昭和47年に札幌市の政令指定都市移行に伴い(旧)西区となり、また、冬季オリンピック札幌大会が開催され、アルペン競技やボブスレー、リュージュ競技の会場となった手稲山は世界にその名を知られるようになりました。平成元年11月6日、人口の著しい増加に伴ってそれまでの西区から分区し、いまの手稲区が誕生しました。手稲区は、手稲町時代からの市街地と昭和40年代以降開発された地域で構成されています。令和元年11月6日に区制30周年を迎え、区が誕生した当時は約105,000人だった人口が、令和2年1月1日現在では、141,781人(59,765世帯)となっており、分区から30年余りで30%以上も増えました。

## 北海道科学大学との連携

■北海道科学大学・北海道科学大学短期大学部

〒006-8585 札幌市手稲区前田7条15丁目  
Tel.681-2161 URL www.hus.ac.jp/

北海道科学大学、手稲区連合町内会連絡協議会、手稲区の三者は、平成20年3月に「地域連携協定」、平成25年3月に「防災連携協定」を締結しており、多数の事業を大学・地域・行政が連携して開催しています。手作りちょうちんで夜を照らす夏の恒例イベント「ていね夏あかり」は令和3年度から大学で開催されます。冬に実施している「HUSキャンパス・イルミネーション」では体験イベントやコンサート等が行われます。また、地域のお子さんからお年寄りまでさまざまな年代に向けた公開講座事業を通じて、地域との交流を深めています。



平成24年に誕生した北海道科学大学のマスコットキャラクター「かがくガオー」。近隣小学校でのあいさつ運動や、前田ふれあいまつりなど地域のお祭り、もちつき大会や防火パレードなどに登場し、手稲区のマスコットキャラクター「ていね」とともに、子どもたちを中心にすっかりおなじみとなりました。

# 手稲区の大使

手稲区では、区民が「住んでいてよかった」と実感できる「ふるさと手稲づくり」の実現に向け、地域資源の積極的活用により、手稲区全体の魅力と活力を高めるまちづくりを進めています。その一環として、手稲区に縁があり、国内外で活躍される方に大使に就任していただき、「ふるさと手稲づくり」に貢献していただいています。

## 手稲区親善大使 三浦雄一郎氏

冬の手稲山といえば三浦雄一郎氏。80歳でエベレスト登頂の快挙を成し遂げ、今なお熱い魂を持ち続ける冒険家、プロスキーヤーです。三浦氏は、今も毎シーズン手稲山でスキーをしたり、スキースクールを主宰したりするなど、手稲区を拠点のひとつとして活動されています。そういつたご縁から、手稲山の標高1,023mにちなんで平成25年10月23日に、手稲区の魅力を世界に発信する「手稲区親善大使」に就任していただきました。三浦氏のご活躍とともに、手稲区の知名度上昇が期待されます。



## 手稲区ふるさと大使 伊藤多喜雄氏

「民謡界」の枠にとらわれず「民謡」の復活に向けて、独自に活動の場を切り開いてきた歌手の伊藤多喜雄氏。唄を通して、日本各地の町おこしにも関わっています。手稲区では、軽川街道まつりや手稲区区制20周年事業、手稲中央小学校開校130周年記念オリジナル花笠音頭作成などのご縁をきっかけに、平成26年9月15日に「手稲区ふるさと大使」に就任。区内の夏まつりへの出演を通して、区民の心に「ふるさと手稲」への愛着を育てていただき、さらに、各方面で手稲の魅力をPRしていただいています。

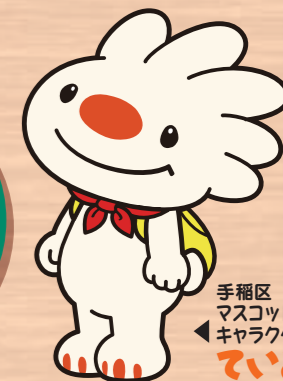


# 手稲区

TEINE WARD  
GUIDE & MAP

# ガイド

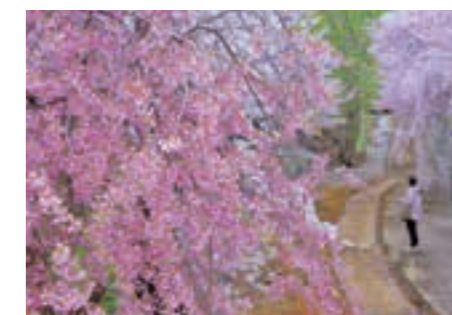
区制20周年を記念して平成21年に誕生したキャラクター。平和とぬくもりの象徴として「手稲」の「て(手)」と「いぬ(犬)」を合わせて「ていぬ」と名付けられました。区主催の行事や地域のイベントなどに登場するほか、地元企業や団体が作る商品に「ていぬ」のデザインが活用されるなど、区のPRと地域の活性化に貢献しています。活動の内容は、手稲区ホームページでご覧になれます。



手稲区  
マスコット  
キャラクター  
ていぬ



【撮影場所】前田森林公園



【撮影場所】旧軽川緑地



【撮影場所】星置の滝



【撮影場所】札幌稲雲高等学校



【撮影場所】手稲山



入賞作品の一部を掲載しています。コンテストの結果はHPでご覧になれます。



三角形は、やさしく区民を見つめる手稲の山々と、未来に向かって限りなく発展を続ける手稲区を象徴する。曲線は、手稲の歴史を刻む「軽川(がるがわ)」と、人情味あふれる区民相互の協調と連帯のひろがりを表す。色彩は木々の緑、さわやかな水辺、澄みきった青空を表現し、これらの豊かな自然を大切にす区民の心意気をあらわす。(平成2年3月制定)

■手稲区役所 総務企画課広聴係  
〒006-8612 札幌市手稲区前田1条11丁目  
☎011-681-2432(直通)  
令和3年4月発行

■手稲区ホームページ  
「ていねっていいね」  
手稲区役所  
www.city.sapporo.jp/teine/

